

第33回 熊本大学附属図書館貴重資料展

近世熊本城の被災と修復

期間 平成29年11月3日(金)～5日(日)

10時～17時

会場 熊本大学附属図書館 1階

古文書閲覧室・ラーニングコモンズ

入場無料

同時開催

公開講演会・第12回永青文庫セミナー

永青文庫研究センター 学内共同教育研究施設化記念

演題 「細川忠利の

領国支配と熊本城」

講師 稲葉継陽 (熊本大学永青文庫研究センター長/教授)

日時 平成29年11月3日(金) 14時～15時30分

会場 熊本大学附属図書館 1階 ラーニングコモンズ

※聴講無料(先着140名まで)



主催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター

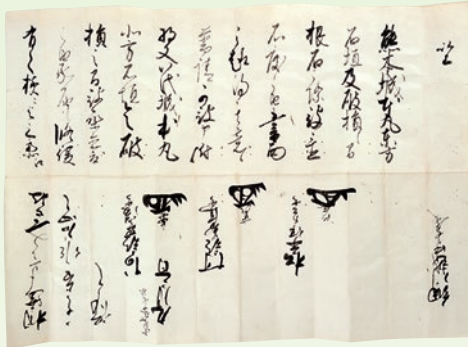
協力 公益財団法人永青文庫

後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB



近世熊本城の被災と修復

平成28(2016)年4月の熊本地震で甚大な被害をうけた熊本城の姿は、「史上最大級の文化財被災」として全国に衝撃を与えました。しかし、永青文庫細川家の文献史料を調査してみると、熊本城はすでに加藤時代から地震等によって被災し、その修復が細川家にとっても大きな課題となったことが分かってきました。細川忠利の城主時代(1632~1641)に焦点を絞り、熊本城の修復への取組みや、城の管理のあり方を、藩政・幕藩関係の中に位置づけながら眺めてみましょう。天守閣の管理に関する森本儀太夫家文書も初公開します。



「江戸幕府老中奉書」 寛永17年9月3日
(永青文庫)

江戸時代の城修復には幕府の許可が必要だった。本文書は三代将軍家光期の老中・松平信綱らが細川忠利に宛てて熊本城と八代城の普請を許可した文書。寛永17(1640)年8月の大雨で両城の石垣が破損した。熊本城は本丸東方石垣の根石の際に石を並べて補強する普請が、八代城は本丸北方石垣を築き直す普請が、それぞれ許可されている。地震だけでなく洪水による石垣破損への対応は、当時の大名たちにとって大きな課題であった。



「肥後国熊本城絵図」 宝永6年10月7日
(永青文庫)

大名が城普請(修復)の許可を幕府から得るには、公文書による申請が必要であり、その際には修復箇所を明示した絵図が添付された。本絵図は宝永6(1709)年に細川綱利(越中守)名義で普請申請したときの提出絵図の控で、左側には、本丸東南の石垣をはじめとする6箇所の普請場所についての説明がある。絵図中に赤で示されているのが普請場所、それぞれに付された番号は左側の説明文に対応する。永青文庫には熊本城・八代城の普請申請絵図の控が40点も伝来している。

永青文庫とは

「永青文庫」は、かつて熊本藩主であった細川家に伝来した美術品や文学作品の写本、そして歴史資料(古文書・古記録)等を所有・管理する財団の名称です。これらの品々のうち、細川家北岡邸(熊本市)の倉に保管されていた数万点の歴史資料や写本が1964年に熊本大学へ寄託され、現在まで附属図書館(中央館)で管理しています。

アクセス



熊本大学附属図書館 〈中央館〉



◎交通センター(仮バスターミナル)から
(16番のりば) 産交バス・電鉄バス:
楠団地、光の森、大津行き等(子飼・熊本大学経由)
「熊本大学前」下車 徒歩3分

※なるべく公共の交通機関をご利用ください。

問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1

096-342-2212

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学附属図書館公認キャラクター
「くまぼん」